

目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てる国語科学習指導の工夫 — 話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動を通して —

三原市立糸崎小学校 吉田 文香

研究の要約

本研究は、話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動を通して、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てる国語科学習指導の工夫を考察した研究である。「目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力」とは、話し手が伝えようとするのが、目的に合っているか意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたり、聞き手に伝わるか想像して、どのような状況で、どのようなことを知りたいのかを考えながら、集めた材料を、分類、比較、選択し、具体を考えることを繰り返しながら、話の内容を考え、話の内容を通して自分が伝えたいことである話の中心や伝えたいことを伝えるための必要な事柄を選ぶ力と考えた。この力を育成するために、「来年度入学予定の幼児に、糸崎小学校を紹介しよう！」という言語活動を設定した。目的や相手を意識し、材料を、意図をもって選択できるように、ワークシートを工夫し、材料を選択した意図を他者に説明させた。目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てるためには、話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動は有効であることが分かった。

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示、以下「29学指」とする。）の国語科の目標（2）では、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと」¹⁾が示されている。さらに、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編（平成30年、以下「29解説」とする。）では、「伝え合う力を高めるとは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。」²⁾と述べられている。「A話すこと・聞くこと」の「話すこと」において、自分の伝えたいことが相手に伝わるように、言語を通して適切に表現する力を高める必要がある。また、令和3年度小学校「全国学力・学習状況調査の結果」において、「目的や意図に応じて、資料を選択し、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことができるように指導することが引き続き大切である。」³⁾と示されている。自分が伝えたいことが相手に伝わるように言語を通して適切に表現する力を高めるために、話す内容を検討し、話の中心を明確にする力を育てることは、伝え合う力を高めるためにも重要である。

しかし、所属校第4学年に「A話すこと・聞くこと」における児童の実態調査をしたところ、話の内容とする材料を選び、その材料を選択した理由を答えられる児童は20%であった。自分が考えた話の内容にも関わらず、なぜその内容にしたのか、理由が答えられない現状がある。

本研究では、話す内容の検討過程の充実を図り、選択の意図を説明する学習活動を通して、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てることを目指す。このことによって、互いの立場や考えを尊重し、適切に表現する力を高めることにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力とは

(1) 目的や相手を意識するとは

「29解説」において、「A話すこと・聞くこと」の領域のうち、話すことの学習過程は、表1に示すように「課題の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「表現」「共有」に整理され、各指導事項を位置付けられている⁽¹⁾。

表1 話すことの学習過程と系統性⁴⁾

		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
		(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。		
話すこと	課題の設定	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり、分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集			
	内容の検討			
	構成の検討	イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること。
	考への形成			
	表現	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
共有				

※一部、一部は稿者による

「話すこと」において「相手」は、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年に出てくる。「29解説」では、第1学年及び第2学年において、「相手」を聞き手とし、「聞き手を意識して、聞き手に伝わるかどうかを想像」⁵⁾することが求められている。聞き手に伝わるかどうかを想像する際には、聞き手がどのような状況にあるのか、聞き手はどのようなことを知りたいのかなどを想定する必要がある。

話すことにおいて「目的」は、第3学年及び第4学年以降に出てくる。「29解説」では、第3学年及び第4学年において、目的として、「説明や報告をする、知りたいことを聞く、互いの考えを伝え合う」⁶⁾など話す活動が挙げられ、「目的に合っているかどうかを意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりする」⁽²⁾ことが求められている。

以上のことから、本研究では、目的や相手を意識するとは、話し手が話す活動を行う際に、伝えようとするものが、目的に合っているかどうかを意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりするとともに、聞き手に伝わるかどうかを想像して、聞き手がどのような状況にあるのか、どのようなことを知りたいのかを考えたり、目的や相手に立ち戻って再考したりすることとして、研究を進める。

(2) 目的や相手を意識し、話の中心を明確にするとは

「29解説」の第3学年及び第4学年「A話すこと・聞くこと」において、話の中心を明確にすることについて、自分の伝えたいことの中心が聞き手に分か

りやすくなるようにすることとし、伝えたいことがよく伝わるよう、相手のことを踏まえて理由や事例を選んでいくことと述べられている⁽³⁾。さらに、「話の中心は、話す目的と密接に関連して決まってくる。」⁷⁾と述べられている。これらの関係を図1に整理する。

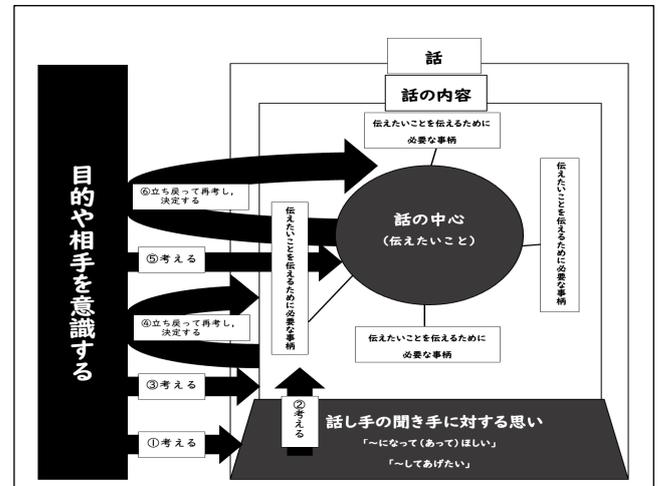


図1 目的や相手を意識することと、話の中心を明確にすることとの関係図

まず、目的を確認し、相手はどのような状況か、どのようなことを知りたいのか想定した上で、聞き手に対して「～なって(あって)ほしい」「～してあげたい」という思いをもつ。

次に、この聞き手に対する思いを土台として、目的や相手を意識して話の内容を作る。このとき、話の内容としようとする材料が、目的に合っているかどうかを意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりするとともに、聞き手に伝わるかどうかを想像して、聞き手の状況や知りたいことを踏まえたり選択したり、目的や相手に立ち戻って再考したりして、話の内容となる材料を決定していくことになる。

そして、話の中心となる伝えたいことを明確にする。このとき、話の中心としようとするものが、目的に合っているかどうかを意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりするとともに、聞き手に伝わるかどうかを想像して、聞き手の状況や知りたいことを踏まえて考えたり、目的や相手に立ち戻って再考したりして、話の中心を明確にしていくことになる。

さらに、話の中心となる伝えたいことを伝えるために必要な事柄を考える。このとき、どのような事柄が必要になるのかを、目的に合っているかどうか

を意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりするとともに、聞き手に伝わるかどうかを想像して、聞き手の状況や知りたいことを踏まえて考えたり選択したり、目的や相手に立ち戻って再考したりして、伝えたいことを伝えるために必要な事柄を考えていくことになる。

話し手が話す活動をする際には、話し手の聞き手に対する思いと、話の中心となる伝えたいこととそれを伝えるために必要な事柄からなる話の内容とを合わせて、一つのまとまった話として聞き手に伝えることになる。

以上のことから、目的や相手を意識し、話の中心を明確にするとは、目的に合っているかどうかを意識しながら確かめたり、より適切なものを見付けたりするとともに、聞き手に伝わるかどうかを想像しながら、聞き手の状況や知りたいことを踏まえて、話し手の聞き手に対する思いを土台として、話の中心となる伝えたいこととそれを伝えるために必要な事柄からなる話の内容を考えて作っていくこととする。

(3) 目的や相手を意識し、話の中心を明確にする過程

目的や相手を意識し、話の中心を明確にする過程として、相手や目的を理解する段階、材料を集める段階、材料を絞り込む段階、話の内容を作る段階の四つの段階を設定する。各段階において行う話の中心を明確にするための活動（以下、「活動」とする。）及びそれぞれの「活動」における児童の思考を整理し、次頁図2に示す。

目的や相手を理解する段階では、目的を確認し、相手はどのような状況にあり、どのようなことが知りたいのか想定し、話し手の聞き手に対する思いをもたせる（「活動」①）。（以下、「活動」の後にある○付の数字は、図2に示す話の中心を明確にするための活動に付された番号と同じものである。）

材料を集める段階では、目的や相手を理解する段階で、確認したり想定したりしたことを踏まえて、目的を達成するための話す材料を幅広く集める（「活動」②）。

材料を絞り込む段階では、まず、集めた材料を、特徴によって分類し（「活動」③）、分類したものを、目的や相手を意識して比較し、選択する。また、選んだものが、目的や相手に照らして適切であるかどうかを再考し、材料として仮決定する（「活動」④）。続いて、仮決定した材料の具体を考え（「活動」⑤）、これを新たな材料として、その特徴によって分類し

（「活動」⑥）、分類したものを、目的や相手を意識して比較し、選択する。また、選んだものが、目的や相手に照らして適切であるかどうかを再考し、材料として仮決定する（「活動」⑦）。

「活動」⑤、「活動」⑥、「活動」⑦に示すように、仮決定したものの具体を考え、分類、比較、選択、仮決定することを繰り返しながら、話の内容とする材料を絞り込んで決定する。

話の内容を作る段階では、話の内容としようとして決定した材料をもって、話の中心となる伝えたいことを明確にし（「活動」⑩）、それを伝えるために必要な事柄を決める（「活動」⑫）。

2 話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動について

(1) 「内容の検討」過程を重視する理由

「29解説」には、「日常生活の中から話題を決め、集めた材料から必要な事柄を選んだり、その内容を検討したりすること」と示されている⁸⁾。また、内容を検討したりすることは、その他の指導事項と密接に関わるものであると示されている⁴⁾。実際、これまでに話す活動を行う際、「何を話せばいいのか分からない。」という課題をもつ児童が多かった。話の内容とその話の中心となる伝えたいこと、それを伝えるために必要な事柄が明確になっていなければ、この先の学習過程において、思考・判断・表現することは難しい。そのため、内容の検討過程において話す内容を検討しておくことが重要である。

(2) 「内容の検討」過程において選択の意図を説明することの意義

森田信義（2017）は、私たちは、表現することによって、何かを明確にしていることの方がはるかに多く、表現以前に明確であったものは、表現過程でさらに明確になり、豊かになると述べている⁵⁾。

このことから、自分が考えたことを相手に説明することで、自分の考えが一層明確になると言える。つまり、内容の検討過程において、なぜその材料を選択すべきだと考えたのかを説明することによって、目的や相手に立ち戻り、選択しようとするものの適切さを考えることになるため、目的や相手を意識し、話の中心を明確にすることにつながるのである。

段階	話の中心を明確にするための学習活動	過程において児童が行うこと、具体的な児童の思考を「」で表す。	児童の思考の図
目的や相手を理解する段階	①目的や相手を理解する。	○目的や相手を確認する。 「目的は、小学校について紹介しよう。」 「相手は、来年度入学予定の幼児だな。」 ○目的を達成するために、相手はどのような状況か、どのようなことを知りたいのか想定した上で、聞き手に対する思いをもつ。 「来年度入学予定の幼児は、学校のことが分からなくて、不安に思っていると思うな。だから、不安をなくしてあげたいな。」 「行事についてお兄ちゃんやお姉ちゃんがいる子は、少し知っているかもしれないけど、詳しくは知らないと思うな。だから、行事について詳しく教えてあげるのもいいな。」	
材料を集める段階	②話す材料を集める。	○目的を達成するために、相手はどのような状況か、どのようなことを知りたいのか想定した上で、材料を幅広く集める。 「小学校について詳しく知らなくて不安になっていると思うから、学校を紹介することで、不安から楽しみに変わって欲しいな。」 「来年度入学予定の幼児に伝えるための材料には、どんなものがあるのだろうか。」	
	③集めた材料を分類する。	○材料を分類する。 「入学予定の幼児に学校紹介として適した材料を分類すると、どのようにまとめられるかな。」 「算数と国語と宿題は、勉強とまとめて、一年生でやる勉強について紹介できるな。」	
	④目的や相手を意識して分類した話す材料を比較し、選択する。	○分類したものを比較し、目的や相手に適したものを選択する。 「目的や相手に適している材料はどれかな。」 「小学校のことが分からなくて不安に思っている来年度入学予定の子たちが、知りたいことは何だろう。」 ○目的や相手に立ち戻り、適切さを再考して仮決定する。 「不安から楽しい気持ちになるのは、行事かな。」 「来年度入学予定の子たちは、学校のことが分からなくて、不安に思っているから、行事は適切な材料かな。」 「行事を伝えることで、楽しみになると思うから、これに決定しよう。」	
	⑤前の段階で選んだものの具体を考える。	○前の段階で選んだものの具体を目的や相手を意識して考える。 「来年度入学予定の幼児に紹介するなら、どのような行事がいいかな。」 「来年度入学予定の幼児に適したものを出してみよう。」	
	⑥新たな話す材料を分類する。	○考えたものを、さらに分類する。 「社会見学と遠足は行ったことがあるから詳しく紹介することができるな。」 「修学旅行と夏季学園は、行ったことがないから詳しく紹介することができないな。」	
	⑦分類した話す材料を比較し、選択する。	○分類したものを比較し、目的や相手に適したものを選択する。 「楽しい気持ちになるのは、社会見学と遠足だな。」 「遠足だと、学校の近くでお弁当を食べて帰るだけだから、バスに乗って動物園へ行く社会見学にしよう。」 「きりんが不安な気持ちから楽しい気持ちになるだろうな。」 ○目的や相手に立ち戻り、適切さを再考して仮決定する。 「社会見学は、来年度入学予定の子幼児に適切な材料かな。」 「社会見学について伝えることで、来年度入学予定の幼児たちは、楽しみになると思うから、これに決定しよう。」	
	⑧前の段階で選んだものの具体を考える。	○前の段階で選んだものの具体を、目的や相手を意識して考える。 「この学校では、社会見学どこに行くのかな。」 「動物園に食品工場。」	
	⑨新たな話す材料を分類する。	○考えたものを分類する。 「どの学年の時に行く場所かな。」	
	⑩分類した話す材料を比較し、選択する。	○分類したものを比較し、目的や相手に適したものを選択する。 「来年度入学予定の幼児が、すぐに行くのは、低学年で行くところだな。」 ○目的や相手に立ち戻り、適切さを再考して仮決定する。 「動物園は、来年度入学予定の子たちに適切な材料かな。」 「動物園について伝えることで、来年度入学予定の幼児たちは、楽しみになると思うから、これに決定しよう。」	
	⑪前の段階で選んだものの具体を考える。	○前の段階で選んだものの具体を、目的や相手を意識して考える。 「動物園では、どんなことをしたかな。」	
話の内容を作る段階	⑫新たな話す材料を分類する。	○考えたものを分類する。 「きりんのえさやり体験を紹介すると、行きたい気持ちになりワクワクするだろうな。」	
	⑬分類した話す材料を比較し、選択する。	○分類したものを比較し、目的や相手に適したものを選択する。 「来年度入学予定の幼児には、えさやり体験の話の方がいいだろうな。」 ○目的や相手に立ち戻り、再考して決定する。 「きりんのえさやり体験は、来年度入学予定の子たちに適切な材料かな。」 「きりんのえさやり体験について伝えることで、来年度入学予定の幼児たちは、楽しみになると思うから、これに決定しよう。」	
	⑭話の内容とする材料を決定する。	○目的を達成するための話の内容が明確になる。 「きりんのえさやり体験について話そう。」 「きりんのえさやり体験を通して、自分が伝えたいことはなんだろう。」	
	⑮話の中心が明確になる。	○目的を達成するための話の中心が明確になる。 「きりんのえさやり体験を通して、社会見学ではこんな楽しい体験ができることを伝えたいな。」	
⑯伝えたいことを伝えるために、必要な事柄が明確になる。	○話の中心を伝えるために必要な事柄が明確になる。 「楽しい体験ができることを伝えるためには、どんな事柄を話すといいかな。」 「きりんさんが、顔を近づけてえさを食べてくれることは、楽しい体験を話す時に必要だと思うな。」		

図2 話の中心を明確にする過程

(3) 「内容の検討」過程において選択の意図を説明する学習活動

話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動を行うために、内容検討シートを用いると共に、選択の意図を説明する場面を複数回設定することとした。その詳細を以下に示す。

ア ワークシートの工夫

田村学 (2016) は、思考ツールを使うと情報が可視化でき、処理する情報(「つぶ)と情報処理の方向(「組み立て方)」、その結果としての成果物(「かたまり)がよく見えると述べている⁽⁶⁾。

黒上晴夫 (2017) が、ピラミッドチャートについて、伝えたい内容を絞り込むときに使うツールであり、取捨選択と統合によって、混沌としていた情報を絞り込んで整理し、「焦点化する」ことや「抽象化する」ことを通して、「構造化する」と述べている⁽⁷⁾。つまり、ピラミッドチャートを活用して、目的を達成するために、相手はどのような状況か、どのようなことを知りたいのか想定した上で、幅広く集めた材料を分類したり比較したりしながら、選択していくことで、自分の考えを可視化することができる。また、ピラミッドチャートの一番上にあるものが、自分が最も相手に伝えたいことだと児童にもイメージしやすいと考え、ピラミッドチャートを用いて、話す内容検討シート(以下、「シート」とする。)を

作成した。これを次頁図3に示す。

「シート」の「ア」には、目的を確認し、目的を達成するために、相手はどのような状況か、どのようなことが知りたいのか想定し、記入する。

「シート」の「イ」には、「ア」で理解したことをもとに、材料を幅広く集め、付箋に書いて、貼り、さらに、その付箋を分類したり、目的や相手を意識して比較したりする。

「シート」の「ウ」には、「イ」で比較したものの中から、選択したものと、それを選択した意図を記入する。

このように、「シート」を活用して、材料を幅広く集め、分類、比較して選択し、選択したものを、さらに新しい「シート」の「イ」で具体的なものにし、「ウ」で選択したものと、それを選択した意図を記入する。繰り返し「シート」に記入させることで、最終的に選んだ材料をもって、話の中心となる伝えたいことを明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決め、話の内容を作っていく。

イ 他者に説明する場面の設定

他者に選択の意図を説明する学習活動を、材料を絞り込む段階で、選択した後(本単元においては、4回)と話の内容を作る段階の後に行う。

説明する学習活動を複数回行うことで、それぞれの段階において、どのように選択しようとしているのか考えを明確にし、他者に説明することで、目的

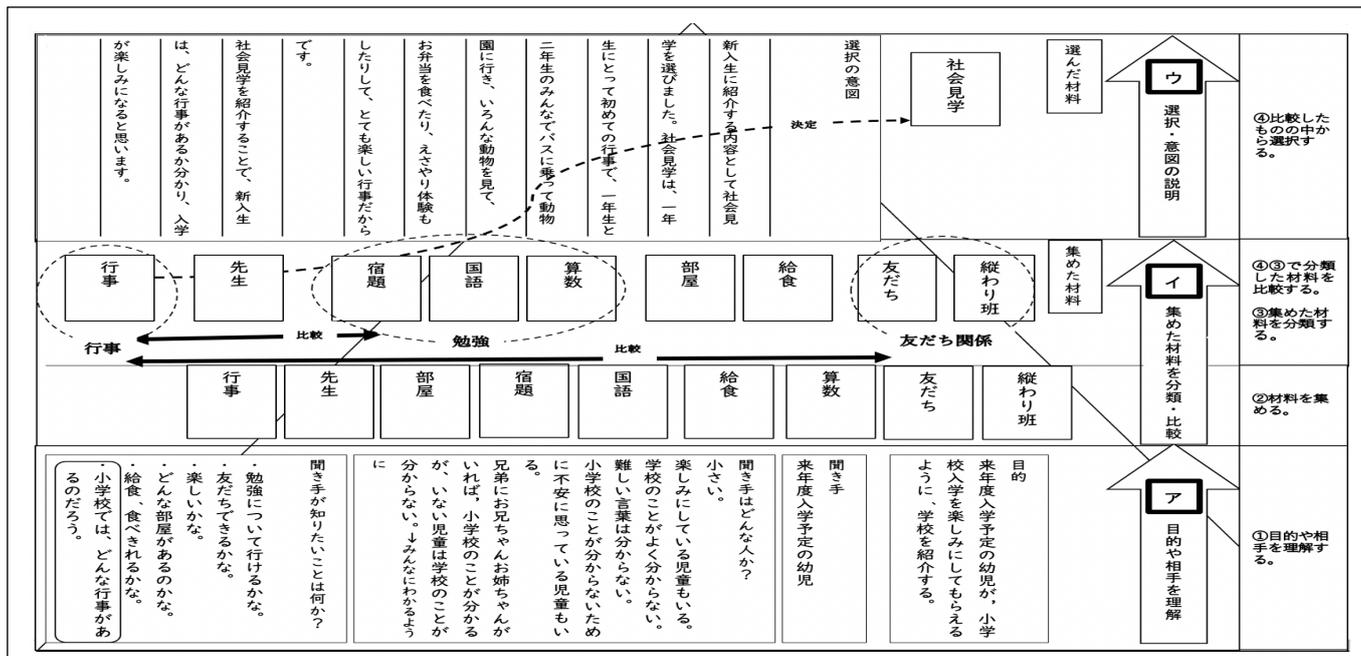


図3 話の中心を明確にする過程で用いる内容検討シート

(ここでは、目的や相手を理解する段階から材料を絞り込む段階の初期における記入例を示す)

※話の内容とする材料が決定するまで、図3に示す内容検討シートと同じ形式のものを貼り重ね、各段階に応じた「イ」、「ウ」に関わる思考を記入させる。

や相手に立ち戻り、選択しようとするものの適切さを考えることになる。また、他者に説明することによって、他者から質問され、それに答えることで、より適切な材料に気付いて、選択肢を広げたり、自分が選択する意図を明確にしたりすることができる。説明する学習活動の後には、新たに気付いた材料や選択の意図を「シート」に加筆させ、改めて目的や相手に立ち戻って、目的や相手に適した材料を仮決定していく。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

話す内容の検討過程において、「シート」を用いて、他者に選択の意図を説明する学習活動を行えば、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表2に示す。

表2 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
1	目的や相手を意識し、話の中心を明確にすることができたか。	動画 内容検討シート 振り返りシート 聞き取り
2	内容の検討過程において、「シート」を用いて、選択の意図を説明する学習活動は、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てる上で有効であったか。	

Ⅳ 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 令和4年6月16日～6月23日
- 対 象 所属校第4学年（1学級24人）
- 単元名 来年度入学予定の幼児に、糸崎小学校を紹介しよう！
- 目 標

目的や相手を意識し、内容の検討過程における選択の意図を他者に説明することができる。

2 研究授業の概要

研究授業の内容及び指導計画を表3に示す。

表3 研究授業の指導計画

時	学習内容	段階
1	・本単元における言語活動とそのゴールについて知る。	
2	・来年度、入学予定の幼児に糸崎小学校のことを紹介するために、目的や相手を理解し、聞き手に対する思いをもつ。 ・理解したことをもとに、内容検討シートを用いて話す材料を幅広く集め、分類・比較をして選択したものを他者に説明する。 ・選択したものが適切かどうかを、目的や相手に立ち戻って再考し、話の内容とする材料を仮決定する。	目的や相手を理解する段階 材料を集める段階 材料を絞り込む段階
3	・内容検討シートを用いて選択した材料の具体を思考する。 ・分類・比較をして選択したものを他者に説明する。 ・選択したものが適切かどうかを、目的や相手に立ち戻って再考し、話の内容とする材料を仮決定する。	材料を絞り込む段階
4	・内容検討シートを用いて選択した材料の具体を思考する。 ・分類・比較をして選択したものを他者に説明する。 ・選択したものが適切かどうかを、目的や相手に立ち戻って再考して話の内容とする材料を仮決定する。	材料を絞り込む段階
5	・内容検討シートを用いて選択した材料の具体を思考する。 ・分類・比較をして選択したものを他者に説明する。 ・選択したものが適切かどうかを、目的や相手に立ち戻って再考し、話の内容とする材料を決定する。	材料を絞り込む段階
6	・内容検討シートを用いて、話の中心を明確にし、話の中心となる伝えたいことを伝えるために必要な事柄を考える。 ・他者に説明する。 ・考えたものが適切かどうかを、目的や相手に立ち戻って再考し、話の中心と伝えたいことを伝えるために必要な事柄を決定する。	話の内容を作る段階

Ⅴ 研究授業の分析と考察

1 目的や相手を意識して話の中心を明確にする力を育てることができたかどうか

(1) 話す内容検討シートと動画での児童の様子による分析

内容検討シートと記録した児童の様子を組み合わせて判断をする。その判断の基準を表4、判断の結果を表5に示す。

表4 児童の判断の基準

評価	判断の基準
A	話の中心（伝えたいこと）を明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決める。
B	話の内容のイメージと話の中心は明確にしているが、話の内容を伝えるために必要な事柄は決まっていない。
C	話の内容をイメージできる状況にはないが、話の中心となり得ることはある。
D	目的や相手は理解していない。

表5 判断の結果 (n=23) (人)

A	8	A児
B	5	
C	5	
D	5	

Aと判断した児童は8名である。この児童は、材料を絞り込む段階で自分が伝えたいことやそれを伝えるために必要な材料の具体的見通しをもっており、話の中心（伝えたいこと）を明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決めている。材料が幅広く集められており、選択の理由も具体的に書かれていて、他の児童と比べて、具体的なものだった。目的や相手を理解する段階に「どんな勉強があるのか分からないから心配だな。」と聞き手の思いまで想定しており、それを解消するために「安心させてあげたい」という聞き手に対する思いを十分にもっている。そのため、話の中心を明確にする全ての段階において、目的や相手を意識して活動し、目的や相手を意識した選択の意図を説明している。

Bと判断した児童は5名である。この児童は、話の内容のイメージと話の中心は明確にしているが、話の内容を伝えるために必要な事柄を決定するまで達しなかった。その要因として、話の内容に関わって、自分の伝えたいことと、聞き手はどのようなことを知りたいのかとを関連付けて、イメージできていないことが挙げられる。

Cと判断した児童は5名である。この児童は、話の内容をイメージできる状況にはないが、話の中心となり得ることはもっている。その要因として、聞き手に対する思いを土台にして、聞き手の不安を解消できるような話をしてあげたいと思いながら活動していることが考えられる。しかし、話の内容とする材料が絞り込めていないため、話の中心を明確にすることはできなかった。

Dと判断した児童は5名である。この児童は、目的や相手の理解ができていなかった。その要因として、自分たちが新生児だったときに、上級生から学校の紹介を受けた経験がないため、「小学校を紹介する」必要性や意義を感じておらず、言語活動及び目的をイメージすることができていないことが考えられる。また、紹介する相手については理解しているが、自分が一年生になる前の状況を思い出せなかったため、相手がどのような状況にあるのか、どのようなことを知りたいのかを想定できなかったことが

考えられる。

これらの結果から、児童がつまづく要因として、目的や相手を意識し続けながら様々な活動を行うことの難しさや、材料を絞り込む段階において、仮決定したものの具体を考えることに難しさがあった。

昨年度は、話の内容とする材料を選び、その材料を選択した理由を答えられる児童は20%に留まっていた。しかし、本単元においては、話の内容となる材料を選び、その理由を説明することができた児童が13名（56%）、また、話の中心（伝えたいこと）を明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決めることができた児童が8名（34%）であることから、一定の成果があったと思われる。

2 内容の検討過程において、選択の意図を説明する学習活動は、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てる上で有効であったか。

(1) 「シート」への記入状況と説明する場面の様子から

話の中心（伝えたいこと）を明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決めるまでに達したA児を例に説明する。

図4は、A児が図2に示す話の中心を明確にする過程の一回目の材料を絞り込む段階の初期において、記入した「シート」、である。

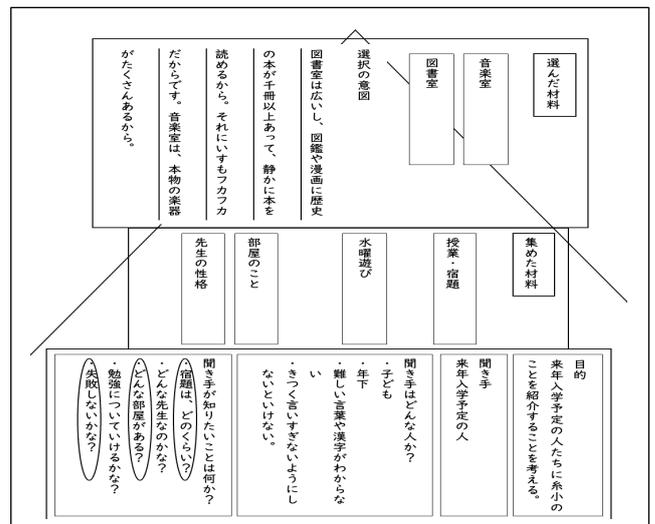


図4 A児が材料を絞り込む段階で1回目の選択をするまでに記入した「シート」

図5は、A児が1回目の相手に説明する場面の後に加筆した「シート」である。

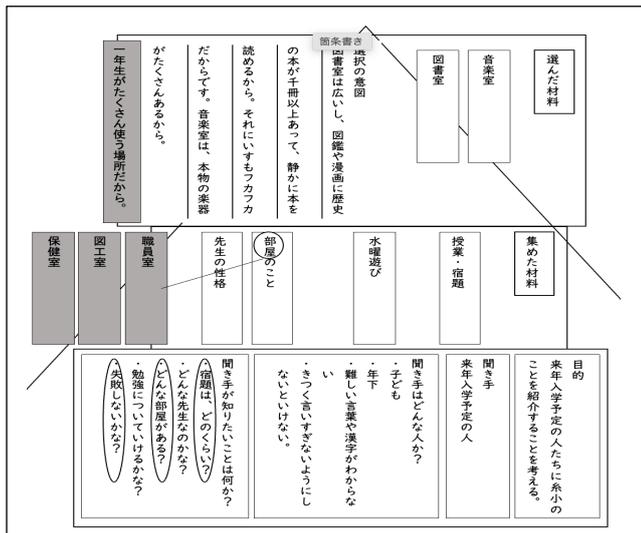


図5 A児が1回目の相手に説明する場面の後に加筆した「シート」

※色を塗ってあるところは、加筆部分を示す

A児は、「音楽室」と「図書室」の二つを材料として選択しているが、なぜ「音楽室」と「図書室」を伝えることが来年度入学予定の幼児にふさわしいと考えたのか、選択の意図が明確ではなかった。

図2の話の中心を明確にする過程の話す材料を絞り込む1回目の選択をした後で、選択の意図を他者に説明する学習活動を行った。A児は、「シート」に書いた通りに、「図書室と音楽室を選びました。図書室は広いし、図鑑や漫画に歴史の本が千冊以上あって、静かに本を読めるし、いすもフカフカだからです。音楽室は、本物の楽器がたくさんあるからです。」と選択の意図を説明したところ、「なんでその部屋なの？」と他者に質問され、「一年生がたくさん使う場所だからだよ。」と説明を加えていた。その説明を聞いた他者から、「一年生がたくさん使う場所なら、図工室や保健室もあるよ。」と言われ、その通りだと考えたA児は、図5に示すように、「一年生がたくさん使う場所だから。」と意図を加筆し、また、その意図に合う他の部屋の「職員室」「図工室」「保健室」を加筆した。

図6は、A児が内容を決める段階の最終段階において記入した「シート」である。材料を絞り込み、説明する学習活動を繰り返す中で、話の内容とする材料を「音楽室」と「図書室」とし、これをもって、「小学校には、幼稚園にないものがたくさんあるから楽しいよ。」という話の中心（伝えたいこと）と、それを伝えるために必要な事柄として「フルート」や「太鼓」、「歴史の本」や「漫画」を挙げている。

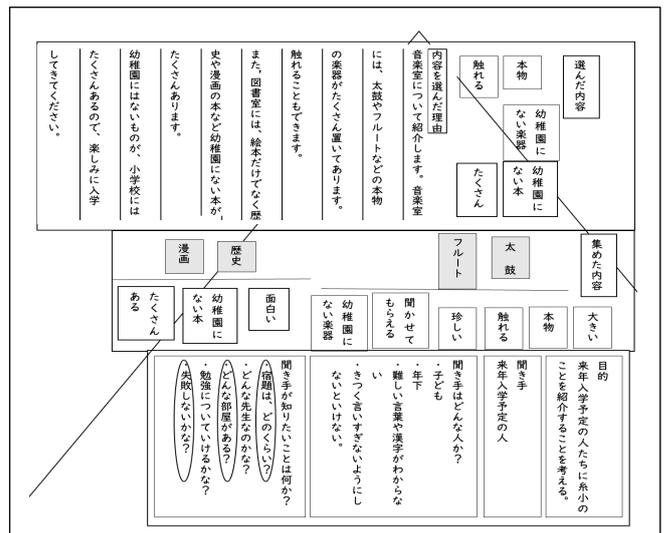


図6 A児が内容を決める段階の最終段階で記入した「シート」

話す内容の検討過程において、A児は、話す内容とする材料を決定する際に、「シート」を用いて、目的や相手を意識して、話の内容とする材料の具体を考え、それを分類、比較、選択することを繰り返して、話す内容とする材料を決定するとともに、選択の意図も記述している。また、説明する場面を繰り返すことを通して、相手や目的に立ち戻って、選択したものの適切さを再考したり、他者からの質問や助言を受けて、「シート」に材料や意図を加筆したりするなどして、目的や相手を意識して材料を決定している。また、話す内容を作る際にも、「シート」を用いたり、選択の意図を説明したりして、話の中心となる伝えたいことを明確にし、それを伝えるために必要な事柄を決めている。

A児以外の児童も、A児と同様にシートへの加筆が増え、「運動会や参観日などの行事の中身を紹介することで、緊張感をもたずに安心して入学してほしい」など、話の中心（伝えたいこと）を明確にしていた。

以上のことから、内容の検討過程において、「シート」を用いて、他者に選択の意図を説明する学習活動を行うことは、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てる上で有効であったと考える。

(2) 説明する学習活動に関する改善案

児童のつまづく要因となった「目的や相手を意識し続けながら、様々な活動を行うこと」と「材料を絞り込む段階において、前の段階で選んだものの具体を考えること」を解消するための改善案を以下に挙げる。

一つ目は、「シート」の工夫である。本単元におい

ては、段階が進むごとに、同じ形式の「シート」を貼り重ねる形で使用した。そのため、単元のはじめに目的や相手について理解したことを意識し続けながら活動を行うことが難しかった。全ての段階の「シート」を一枚に集約し、目的や相手を理解する段階で考えたことを記入する欄を、図2に示すように左側に配置し、矢印を書き入れておくことで、常に目的や相手を意識させることができ、選択の意図を記入したり、他者に説明させる場面においても、目的や相手を踏まえた記述や発言が生まれたりしたと考える。また、材料を絞り込む段階において、前の段階で選んだものの具体を考えることにつまずきがあったため、「シート」の中に具体的なものを考えるためのヒントとなるような文言を入れたり、話の内容を作る段階に特化したワークシートを作成したりする必要があった。

二つ目は、説明する学習場面の充実を図ることである。選択の意図を他者に説明する学習活動を行う際、自分の考えを伝えるだけに留まるグループがあった。相手の考えを受けて質問したり、確認したり、他のアイデアを出し合ったりするようなやりとりができるよう、共有の仕方について、指導を充実させる。こうすることで、選択の意図を説明する学習活動が効果的なものになり、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育てることにつながると考える。

三つ目は、授業設計である。目的や相手を意識し続けることや、前の段階で選んだものの具体を考えることにつまずきがあったことから、児童に「シート」を用いて考えさせる前に、別の言語活動の場合を例に、話の中心を明確にする過程を児童と共に行い、学習活動の見通しをもたせるようにする。その上で、「来年度入学予定の幼児に、糸崎小学校を紹介しよう！」の言語活動を行わせれば、目的や相手を意識するとは、どういうことかを理解させ、仮決定したものの具体を考えるとどういうことかをイメージさせやすかったのではないかと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

話す内容の検討過程における選択の意図を説明する学習活動を行うことで、話の中心を明確にする力の育成につながることが分かった。また、内容の検討過程において、選択の意図を説明する学習活動は、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を育

てる上で有効であることが分かった。

2 研究の課題

共有の仕方を身に付けさせるために、説明する学習活動において、お互い理解したことを伝え合ったり、質問し合ったりできるような共有をすべての学習活動で行うことが必要である。

今回は、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする学習に留まっているため、話の中心が明確になるよう構成したり、話の中心が伝わるように話すことに繋げたり、「B書くこと」の領域にも応用させたりすることで、目的や相手を意識し、話の中心を明確にする力を汎用的に活用できるように導いていきたい。

【注】

- (1) 文部科学省（平成30年）：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』東洋館出版社p. 202に詳しい。
- (2) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 95に詳しい。
- (3) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 96に詳しい。
- (4) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 96に詳しい。
- (5) 森田信義（2017）：森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一『新訂国語科教育学の基礎』溪水社p. 37に詳しい。
- (6) 田村学（2016）：関西大学初等部著『関大初等部式思考力育成法ガイドブック』さくら社p. 58に詳しい。
- (7) 黒上晴夫（2017）：田村学・黒上晴夫著『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館 p. 123に詳しい

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 11
- 2) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 12
- 3) 国立教育政策研究所（令和3年）：「全国学力・学習状況調査の結果」
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r03setsumeikai/21ers.pdf>（最終アクセス令和4年9月4日）
- 4) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 29
- 5) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 58
- 6) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 95
- 7) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 96
- 8) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 29